

平成31年1月31日開催

第2回岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会主な意見のとりまとめ

議題（1）事務局からの報告について

- 教育大綱について、次回までにお示しいただきたい。
- 小規模特認校制度については、通学手段が課題である。
- より良い教育環境の構築に向けて、1学級の学級人数についても議論していきたい。

議題（2）アンケート調査結果【小学校】について

- 望ましい学校規模について、アンケート調査結果では1学年1学級の意見が少なかったが、1学級の良さもあると思う。
- 1学年2～3学級が望ましいという意見と通学の安全性を望む意見が多かったが、小規模校で2～3学級を実現するためには学校を集めないといけない。これは通学範囲が広がることになるので少し矛盾している気がする。
- アンケートの自由記述は非常に重要なものである。教員、保護者ともに学級規模に高い関心を持っていることが印象的であった。
- 支援学級担任や音楽の先生等がアンケートの調査対象外であったことが残念である。

議題（3）小学校の適正な学校規模について

- アンケートでは2～3学級が望ましいという意見が多い中でそれ以外の選択肢が残されているのか。審議会委員が意見する余地はあるのか。
- 単にクラス数だけを考えるのではなく全体の中でどれが望ましいかといった整備が必要。
- 学校規模と「不登校の出現率」、「いじめ認知件数」、「学力」の3点に相関関係があるのか気になった。
- 通学区の弾力的措置といったものも重要である。
- 通学距離や時間についても重要である。国の基準は小学校4キロ以内、中学校6キロ以内であるがこの基準は時代遅れである
- 他市の事例を見ると、本市の学区（通学距離）についてはもっと広げてもいいのかと思う。
- 2～3学級を編成するとなると学校の統合しかない地域もある。そうすると通学手段の課題が生じてくるので、該当地域には別途アンケート調査も必要ではないか。
- 仮に2～3学級が適正規模となったとしても、そうでない学校はすぐに統廃合とはならない。保護者や地域住民と話し合いや合意が必要である。
- 海外ではもっと少人数のクラスでやっている。教育内容も討論型で自主的なものになっており良いと思う。
- 児童数の適正規模については、学級数が決まれば全体の人数が出るので、人数まで決める必要はない。
- 少人数学級という意見が多いが実現に向けては財政的な事情もありなかなか難しい。子どもたちにとって望ましい教育環境とは、最低でも多様な学習形態を選択できる環境を構築していくことである。
- 1学年で2学級程度、学級人数は実数で30人程度が望ましいといったところか。ただ今日は結論を出さず少し間をおいて委員の皆さんにお考えいただきたい。